

(様式 1-3)

福島県(田村市) 帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等個票
令和4年1月時点

※本様式は1-2に記載した事業ごとに記載してください。

| | | | | | |
|---|------------|-----|----------------------------|------------|----------|
| NO. | 36 | 事業名 | 農産物を活用した6次化の創出に向けた移住人材確保事業 | 事業番号 | (7)-49-3 |
| 交付団体 | 田村市 | | 事業実施主体(直接/間接) | 田村市(直接) | |
| 総交付対象事業費 | 36,955(千円) | | 全体事業費 | 36,955(千円) | |
| 帰還・移住等環境整備に関する目標 | | | | | |
| <p>本市は、避難解除から間もなく8年を迎えようとしている。避難民の帰還率は20キロ圏内で約8割、30キロ圏内で約9割に回復し、帰還については、一定の成果が見えている。</p> <p>その一方で、震災前の2010年と震災後の2015年の国勢調査結果を比較するとわかる通り、総人口は40,422人から37,220人に減少し、15歳以下の年少人口の構成比は12.6%から11.5%、生産年齢人口は58.4%から56.6%、老年人口は28.9%から32.0%へと推移しており、人口減少・少子高齢化が進んでいる。</p> <p>また、原発事故以前の基幹産業であった農林・畜産業は未だに続く風評被害による影響や、人口減少・少子高齢化に伴う後継者不足も重なって厳しい状況にあり、製造業やサービス業においても風評被害の影響は農林・畜産業と比較すると限定的ではあるが、人口減少に伴う担い手不足が顕在化し始めている。</p> <p>上記の状況を踏まえ、復興を後押ししてくれる新しい人(移住者)を積極的に受け入れ、これまで培ってきた地域の魅力や特徴に加えて、移住者を起点とする新しい産業や暮らしの在り方との共存を目指すことが重要である。帰還・移住等環境整備事業では、本市における避難指示区域であった都路地域を中心に、古くから続いてきた農林・畜産や里地・里山での自然豊かな環境での暮らし、山菜や川魚などの豊富な食文化といった、これまでに培ってきた魅力や特色の維持・発展に加えて、周辺市域と連携を図りながらデジタル化の推進等による産業・暮らしのアップデートを図り、時代の変化や課題に対応できる持続可能なまちづくりを目指す。</p> | | | | | |
| 事業概要 | | | | | |
| <p>【事業全体の概要】</p> <p>本市の農業従事者は毎年減少し続けており、この現状を打開するため、飲食事業や農業×飲食を志す移住人材を対象に、地産農産物を活用したキッチンカー事業のアイデアを募集し、優秀な企画に対してキッチンカーを活用したビジネス展開をサポートするとともに、その後の常設店舗販売やEC販売といった固定事業化に向けた支援を行うことで、当該人材の獲得を図る。</p> <p>併せて、キッチンカー事業を起点として、地域の賑わい創出につなげていく動きの一環として、イベントを開催し、市内外への商品等のPRを行い、認知獲得につなげていく。</p> | | | | | |
| <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ キッチンカーの導入・ キッチンカー及び本市農産物等の地域資源を活用したアイデアコンテストの開催・ キッチンカー事業開始に向けた経営サポート、地元農家とのマッチング支援・ 農地情報の収集、整備 | | | | | |

※田村市移住・定住促進中期戦略（2021年度～2025年度）上の位置付け

1. 目指す姿

(1)産業 ア 第一次産業

②新たな思考や価値観を持つ営農者やスマート農業が増え、耕作放棄地の増加を抑制する

(1)産業 ウ 第三次産業

⑤里地・里山を地域資源として新たに創業起業する人が増える

3. 移住・定住の目標値

○分野別の目標値 ア 第一次産業（35）

②農業スマート化等による新規就農者

ウ 第三次産業（60）

⑤都路地区等で別荘や遊休不動産等を利活用した環境での創業起業、事業展開に伴う雇用者・移住者

4. ターゲット層

(2) 本市が戦略的にアプローチするターゲット層 【コアターゲット】

・ 不足する農業後継者の解消に向けた新規就農者及び本市が競争力強化を目指しているスマート農業など新しい技術を取り入れた農業関連分野で、生産物のブランド化、6次化や耕畜連携を推進する人

【5地域資源（4）①イ・ハ、②ハ・ニ、③へ】

・ 都路地区等で別荘や遊休不動産等を利活用した里山田舎暮らしを実践しながら、新たな価値を創出する創業起業、事業展開にチャレンジする人 【5地域資源（4）①ロ、②ロ、③イ・ロ・ト】

5. 地域資源

(4) 地域の魅力とその課題又はさらなる発展の期待

イ. 市による都路地区（市内全域）の農地整備が行われており、効率的農地利用が可能。また、市内に耕作放棄地も多数点在する。

6. 取組と実行基盤

No. 2 農業従事者獲得と生産物のブランド化・6次化・耕畜連携の創出

No. 3 都路地区等で別荘や遊休不動産等を利活用した創業起業家・スマートワーカー創出

当面の事業概要

<令和4年度>

- ・ キッチンカーの導入
- ・ キッチンカー及び本市農産物等の地域資源を活用したアイデアコンテストの開催
- ・ 事業開始に向けた経営サポート、地元事業者とのマッチング支援
- ・ 農地情報の収集、整備

<令和5年度>

- ・ キッチンカーの導入
- ・ キッチンカー及び本市農産物等の地域資源を活用したアイデアコンテストの開催
- ・ 事業開始に向けた経営サポート
- ・ 農地情報の収集、整備

| |
|---|
| 地域の帰還・移住等環境整備との関係 |
| 別途実施される東京リクルートセンター運営事業や田村サポートセンター運営事業等の移住・定住促進事業と連携し、創業・起業家育成プログラムの受講生の獲得、受講後のフォローアップを図り、市内における創業・起業支援、その後の事業拡大支援に取り組む。 |
| 関連する事業の概要 |
| |

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

| | |
|-----------|--|
| 関連する基幹事業 | |
| 事業番号 | |
| 事業名 | |
| 交付団体 | |
| 基幹事業との関連性 | |
| | |